

# 2012年3月期 第1四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

## 第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

### 2012年3月期 第1四半期決算のポイント

- 事業環境の変化にもかかわらず、営業業績は総じて順調に推移しました。国内市場では無配当医療保険「メディカルエール」の高水準の販売が続き、海外生保事業も予想を上回る成長を見せました。
- 第一生命(以下、「当社」)において有価証券評価損として204億円を計上しましたが、運用収支が予想以上に改善したことや、事業費効率改善により吸収することができました。オーストラリアのTAL社(※)の連結効果等により、四半期純利益は増益を達成しました。
- 四半期純利益の通期予想に対する進捗率は高水準ですが、内外のマクロ経済・金融環境は楽観できる水準とは言えず、短期的には慎重なスタンスで進捗を見守る必要があるため、期初の業績予想を据え置くこととしました。

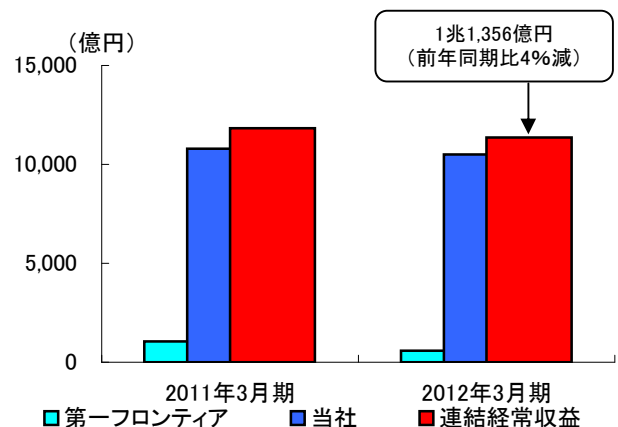
※2011年5月、当社の関連会社であるタワー社(TOWER Australia Limited)を完全子会社化し、4月1日より連結業績に取り込んでおります。なお、タワー社は2011年6月に社名変更を行い、TAL社(TAL Limited)となりました。

#### (1) 経常収益

連結経常収益は1兆1,356億円(前年同期比4%減)となりました。

第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)における、ALMリスクに配慮した販売戦略を反映して変額年金保険の販売が減少したことを受けて保険料等収入が前年同期比で減少したこと、資産運用収益に関して有価証券売却益や金融派生商品収益が減少したことが主な要因であります。

#### 経常収益第1四半期実績



## (2) 経常利益・純利益

連結経常利益は473億円(前年同期比7%減)、連結四半期純利益は322億円(同210%増)となりました。

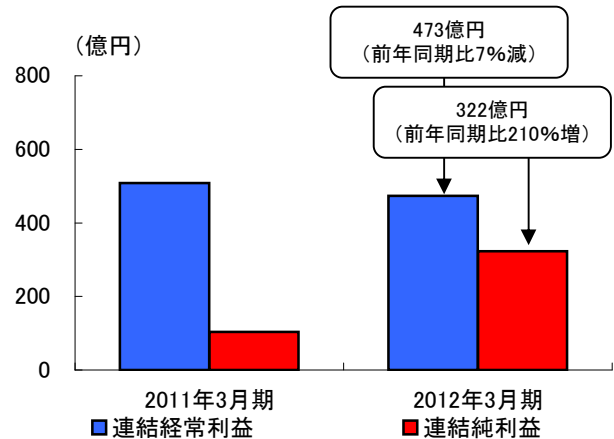
特別損益において、TALの完全子会社化に伴う段階取得に係る差益(注)231億円を計上したこと等により、四半期純利益は前年同期と比べ218億円増加しました。

(注)段階取得に係る差益とは？

子会社株式の取得が複数の取引を通じて行われた場合(段階取得)、先行取得分に係る投資額については子会社化時点の時価で評価替えを行い、当初の取得原価との差額を「段階取得に係る差損益」として計上します。

TAL株式会社については、2008年に関連会社化した際の投資額を、完全子会社化した際の時価で評価替えした結果、差額を段階取得に係る差益として計上することとなりました。

### 経常利益・純利益第1四半期実績



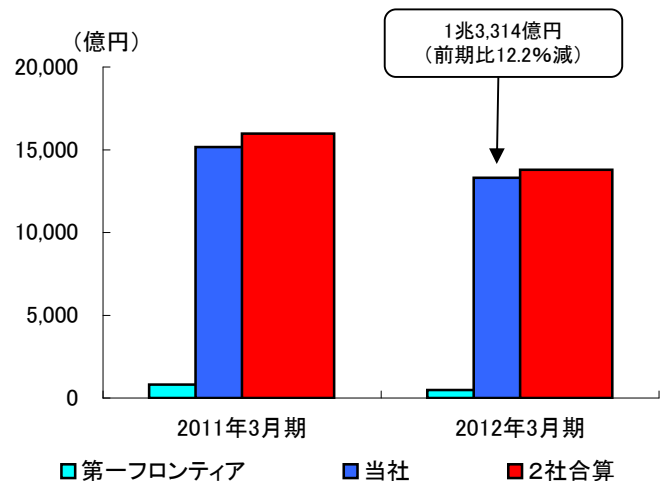
## (3) 新契約の状況

新契約高は、当社と第一フロンティア合算ベースで、1兆3,798億円(前年同期比13.6%減)となりました。

当社の新契約高は、従来型の一時払終身保険の販売が前年同期比で減少したことなどから、1兆3,314億円(同12.2%減)となりました。

第一フロンティアにおいても、ALMリスクに配慮した販売戦略を反映して変額年金の販売が減少したことから、新契約高は前年同期比で減少しました。ただし、外貨建定額年金の商品性を高めるなど定額年金のてこ入れを図り、安定的に資産残高を積み上げることに成功しております。2011年6月末の保有契約高は1兆4,741億円に達しています。

### 新契約高第1四半期実績

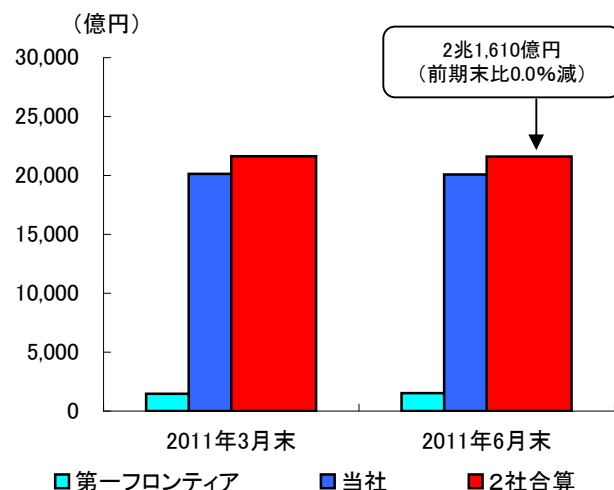


## (4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社と第一フロンティア合算ベースで、前年度末と比べほぼ横ばいの2兆1,610億円(前期末比0.0%減)となりました。

このうち、医療保険を中心とする第三分野の年換算保険料は5,093億円(同0.5%増)、第一フロンティア生命の保有契約年換算保険料は1,530億円(同3.4%増)となり、成長分野の年換算保険料は順調に拡大しております。

### 保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2011年6月末)は、株価下落により国内株式の含み益が減少したものの、金利低下に伴う債券価格上昇により国内債券の含み益が増加した等の要因から、7,960億円(前期末比1,568億円増)となりました。

含み損益(当社、一般勘定)

	2011年 3月末	2011年 6月末	増減
有価証券	6,141	7,727	+1,586
うち国内債券	3,838	5,961	+2,122
うち国内株式	3,056	2,208	△847
うち外国証券	△ 804	△ 553	+251
不動産	205	199	△5
その他共計	6,392	7,960	+1,568

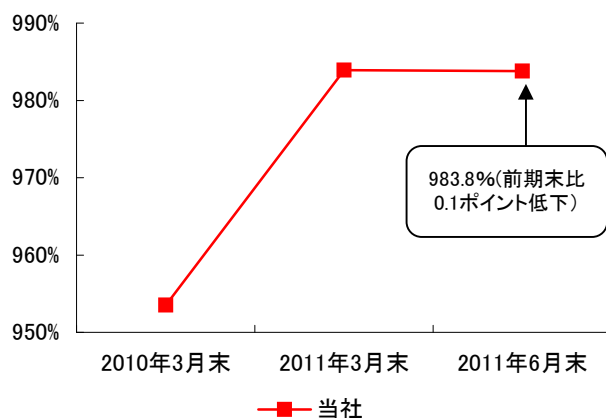
(億円)

(6) ソルベンシー・マージン比率<sup>(注)</sup>

当社のソルベンシー・マージン比率(2011年6月末)は、前期末とほぼ同水準の983.8%(前期末比0.1ポイント低下)となりました。

なお、今期末より導入される新基準に基づくソルベンシー・マージン比率は550.0%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは?

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

当期純利益の進捗率は高水準ですが、内外のマクロ経済・金融環境は楽観できる水準とは言えず、当面は慎重なスタンスで進捗を見守る必要があると考えており、業績予想は期初予想を据え置くこととしております。

なお、期初予想においては、経常収益は4兆3,340億円(前期比2,375億円減)、経常利益は1,680億円(前期比868億円増)、当期純利益は370億円(前期比178億円増)を見込んでいます。

連結業績予想

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (予想)	増減
経常収益	45,715	43,340	△ 2,375
経常利益	811	1,680	+868
当期純利益	191	370	+178
			(円)
1株当たり 当期純利益※	1,917	3,752	+1,834
1株当たり 期末配当金	1,600	1,600	-

※1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予想する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。